



News

実用書講座「マネー講座」を開催しました！

8/20・27の2日間、実用書講座を開催しました。今回は安心老後の準備とキャッシュレスについて、わかりやすい解説を先生にいただきました。講座では質問も飛び交い、充実した内容になりました。参加してくださった皆様、ありがとうございました。



図書館カレンダー【9月】

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

毎週月曜日は休館日です。

第3木曜日は、館内整理休館日です。

今月の展示

小説

長崎ゆかりの本

実用書

敬老の日

秋を楽しむ

『万葉集』特集

西館日和

日中の蒸し暑さは相変わらずですが、夏の間フル稼働したエアコンもつける時間が短くなってきました。毎日のように最高気温のニュースが伝えられ、40℃に近い街中に出ることがとても危険なことだと感じた今年の夏でした。来年の東京オリンピック・パラリンピックはどうなることやらと誰しも思っていることと思います。

この頃、閉館時刻の陽の傾きに秋の到来を感じます。読書の秋、図書館で本との新たな出会いを見つけませんか？西諫早図書館で人気のコーナーは、新刊書や企画展示、映像化された原作本、手軽なサイズの文庫・新書のコーナーです。人生訓、ビジネス本も新しい発見があるかもしれません。また、長く読み継がれている名作など手にされてはどうでしょうか。図書館でゆっくり本探しができない方は諫早市立図書館ホームページの資料検索で本探しができます。こちらどうぞ。この秋、窓から入ってくるやさしい風を感じながらゆったりと読書を楽しんでください。

分館長 池田

おすすめの1冊

『傑作はまだ』 瀬尾まいこ／著 (リニミュータツクイリイリイリイ)

『そして、バトンは渡された』で2019年本屋大賞を受賞した著者の受賞後最初の作品です。

小説家である主人公の家に、訳あって別に暮らしていた息子が突然転がり込んで同居することに。生まれてから毎月送られてくる写真でしか見たことのない息子が、何の意図があってやって来たのか疑問をかかえたまま同居生活が始まります。

社会との関わりを持たず、引きこもりのような生活をしてきた父と対照的に、人懐っこくすぐに地域に溶け込み自治会活動にも参加する息子。少しずつ息子に対しての心の変化が読み取れ、小説にも変化の兆しが生まれます。

それにしても、ここまで気が付かなくて気が利かないの？というお手上げ状態の父に投げかける息子の言葉も痛快です。

一人で生きてきたつもりが、実は家族みんなに見守られていた。最後はやさしきで心が満たされるそんなお話です。(I)

新刊ピックアップ!

『47都道府県・名字百科』	森岡 浩	丸善出版
『九州の島めぐり』	吉村 靖徳	海鳥社
『隠居のひとり旅にはわけがある』	高野 郷	文芸社
『40℃超えの日本列島でヒトは生きていけるのか』	永島 計	化学同人
『なかなか治らない難治性のうつ病を治す本』	田島治／監修	講談社
『ここからはじめる発酵食』	栗生 隆子	家の光協会
『もっと知りたいミュシャ 改訂版』	千足 伸行	東京美術
『ひぐらし先生、俳句おしえてください。』	堀本 裕樹	NHK 出版
『もう少し浄瑠璃を読もう』	橋本 治	新潮社
『烈風ただなか』	あさの あつこ	KADOKAWA
『決断の刻(とき)』	堂場 瞬一	東京創元社
『この顔と生きるということ』	岩井 建樹	朝日新聞出版

この他にもたくさんあります！ 貸出中の本には予約ができます。ぜひご利用ください。